

**こども環境学会2013年大会（東京）**  
**「こどものコミュニティ力 ～こどものつながる力・つなげる力～」**  
**2013年4月26日（金）～28日（日）**

**報告書**

**【1】概要**

- タイトル：こども環境学会2013年大会（東京）
- 大会テーマ：「こどものコミュニティ力 ～こどものつながる力・つなげる力～」
- 期日：平成25年4月26日（金）～28日（日）
- 会場：東海大学 高輪キャンパス（東京都港区高輪2-3-23）

**■大会主旨・目的：**

「こども環境学会」は学問の領域を超えて、こどもを取り巻く環境＝「こどもの環境」の問題に関心や係わりのある研究者や実践者が集い、共に研究し、提言をし、実践してゆくなかで、こどもの成育に寄与する環境科学を確立し、こどものためのよりよい環境を実現することを目的としています。

東日本大震災は「未来を担う子どもの成育環境を『幸せ』が実感できる持続可能で安全・安心な社会・地域づくりへ変革せよ」という未来からの警告と私たちは受けとめています。2011年4月に緊急支援集会を開催し、「東日本大震災支援にかかる行動計画」を策定し、子どもの参画による、子どもにやさしいまちの再生を目指して、学会としての復興支援活動を行ってきました。

2012年度には、この1年間の東日本大震災被災地に対する復興支援活動を総括する意味も含めて、大会およびシンポジウムを仙台市で「復興再生：子ども参画による子どもに優しいまちづくり」をテーマとして開催しました。子どもたちが社会の一員としてコミュニティをつなぎ・つながる力を持っていることが明らかとなりました。

本大会では、震災復興・地域再生に向けて次世代のしなやかで創造的な力「コミュニティ力」をいかし、それを支える大人の力を育み、さらに日本の持続可能な社会・地域づくりに協働する方策を探求した。

**■内容（概要）：**

**【4月26日（金）】**

エクスカージョン：子どものための施設見学ツアー（参加数：）

「東京サレジオ学園」「三鷹市星と森と絵本の家」「自由学園明日館」

**【4月27日（土）】**

◆開会式、オープニングセレモニー

◆国際シンポジウム

岸裕司（コーディネーター）

（株）パンゲア代表取締役。埼玉大学・日本大学非常勤講師、文部科学省コミュニティ・スクールマイスター、秋津コミュニティ顧問など。

ジュリー・デイビス (Julie Davis)

クイーンズランド工科大学准教授。持続可能性・環境・幼児・健康などに関する世界第一人者。オーストラリア政府の環境教育のガイドラインの策定委員、世界幼児教育機構の代表

キャシー・ウォン(Kathy Wong)

香港プレイライト代表。香港プレイライトはアジアで最も活発な遊び団体の一つで児童館も運営、2008年にIPA香港大会主催

汐見稔幸

こども環境学会副会長・白梅学園大学学長

◆特別シンポジウム

子どもに優しいまちづくりをすすめる自治体首長によるシンポジウム

コーディネーター：仙田満（代表理事、東京工業大学名誉教授）

パネラー：秋葉 忠利（前広島市長、広島大学特任教授）

：加藤 憲一（神奈川県小田原市長）

：稲葉 暉（岩手県一戸町長）

コメンテーター：小澤紀美子（こども環境学会会長・東京学芸大学名誉教授）

：汐見 稔幸（こども環境学会副会長・白梅学園大学学長）

：木下 勇（こども環境学会理事・千葉大学教授）

：天野 秀昭（こども環境学会評議員・大正大学特任教授）

◆東日本大震災復興支援活動報告（会長：小澤紀美子）

◆ポスターセッション①

◆ワークショップ①②

こども活動の支援者に向けた「つながる力・つなげる力を考える」

ファシリテーター：難波克己氏（玉川大学心の教育実践センター准教授）

◆総会／学会賞授賞式、交流会

【4月28日（日）】

◆分科会A～H

【午前の部】10：00～12：00

●分科会A＝こども環境と制度～「幸せ」を育み、こどもの未来に希望を！

仙田満（こども環境学会代表理事・東京工業大学名誉教授）

吉成信夫（岩手子ども環境研究所理事長・森と風のがっこう理事長）

田嶋茂典（元愛知県総合児童センター長）

汐見稔幸（白梅学園大学学長・こども環境学会副会長）

●分科会B＝放課後という時間の価値

菊池宇光（NPO法人子どもアミーゴ西東京理事）

上平泰博（元大田区子ども交流センター所長）

北澤潤（「放課後の学校クラブ」プロジェクト主宰）

神谷明宏（聖徳大学准教授・2013年大会実行委員長）

●分科会C＝これからの保育者に求められる力とは～園庭改造の根底にあるものを探る

柿沼平太郎（栗橋さくら幼稚園園長）

岩井沙弥花（都原保育園園長）

木村歩美（篠原学園専門学校）

●分科会D=こどものコミュニティ力をひろげる空間

手塚貴晴、手塚由比（手塚建築研究所）  
遠野未来（遠野未来建築事務所）  
仙田考（環境デザイン研究所）  
松本直司（名古屋工業大学大学院教授）  
吉田麻耶（フリーランス）

【午後の部】13:00~15:00

●分科会E=こどものコミュニティ力を活かす「つながりのデザイン」

加藤篤（NPO法人日本トイレ研究所代表理事）  
江本一男（えき・まちネットこまつ副理事長）  
新田新一郎（プランニング開・子ども笑顔元気プロジェクト代表）  
小澤紀美子（こども環境学会会長・東京学芸大学名誉教授）

●分科会F=こどもがつながるための大人の役割~つながる居場所で育ったこどもたち

山本香菜子（NPO子どものまち代表）  
伊藤駿太（杉並区立南伊豆健康学園卒園生）  
鈴木歩佳（ZEROキッズ）  
西野博之（川崎市子ども夢パーク所長・フリースペースたまりば理事長）  
伊藤益子（みなみいずの会代表）  
齊藤ゆか（聖徳大学准教授）

●分科会G=こどもの表現の受け止め方

宮里和則（NPO法人ふれあいの家—おばちゃんち理事）  
石幡愛（NPO法人クリエイティブサポートレッツ）  
加藤未来（プロジェクト大山）  
安藤耕司（遊び創造集団たのしーのひ代表）

●分科会H=こどもと道とコミュニティ

星野諭（NPO法人コドモ・ワカモノまちing代表理事）  
嶋村仁志（TOKYO PLAY代表）  
池田豊人（国土交通省・関東地方整備局道路部長）  
木下勇（千葉大学大学院教授）

◆ポスターセッション②

◆審査論文・卒業論文・修士論文発表会

◆2012年度こども環境学会賞 受賞者記念講演

◆総括セッション・大会提言

■主催：公益社団法人こども環境学会

■後援：

内閣府、国土交通省、文部科学省、厚生労働省、環境省、岩手県、岩手県教育委員会、宮城県、宮城県教育委員会、福島県、福島県教育委員会、港区、千葉市、小田原市、日本学術会議、一般社団法人日本建築学会、公益社団法人日本都市計画学会、公益社団法人日本造園学会、日本発達心理学会、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、一般社団法人日本保育学会、一般社団法人日本公園緑地協会、一般財団法人公園財団、財団法人都市

緑化機構、社団法人全国建設室内工事業協会、社団法人都市計画コンサルタント協会、一般社団法人日本造園建設業協会、社団法人日本公園施設業協会、公益財団法人日本ユニセフ協会、IPA 日本支部、日本子ども社会学会、公益社団法人日本小児保健協会、人間・環境学会、社団法人日本建築家協会、日本環境教育学会、特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター、独立行政法人科学技術振興機構（JST）、一般社団法人日本体育学会、日本安全教育学会、特定非営利活動法人日本世代間交流協会、日本感性工学会、特定非営利活動法人日本子ども NPO センター、聖徳大学、東海大学（順不同）

■事務局：こども環境学会事務局（事務局長：中山豊）

〒106-0041 東京都港区麻布台 3-2-12、TEL: 03-6441-0564 FAX: 03-6441-0563  
e-mail: info@children-env.org、URL: <http://www.children-env.org/>

■参加費等

大会参加費：正会員、団体会員：5,000 円（当日参加は、5,500 円）、学生会員、一般学生：3,000 円（当日参加は、3,500 円）、障害者、こども（高校生以下）：無料（但し資料代別途）  
エクスクーション参加費：3,000 円（午後の場合：2,000 円）

■参加者数など

大会参加者総数：456 名

内訳：有料参加者：362 名、招待者：33 名、子ども（高校生以下）：10 名、障害者（同伴者含む）：4 名、ボランティア：23 名、講師：24 名

交流会参加者：120 名

エクスクーション参加者：49 名

■ポスターセッションについて

ポスターセッションは、A. 学術研究・調査活動等の発表 38 編、B. 非営利活動団体の活動紹介 16 編があった。優秀なポスター発表賞として、以下の 7 編が表彰された。

「持続可能な社会へ向けての園庭指針：スウェーデン ウメオ市」石田佳織（はぐくみの庭）

「こどもが設計・施工・運営する空き家を活用したこどもカフェ」丸茂友紀（首都大学東京）ほか

「幼児期に過ごした住宅の垂直位置が人の対人スキル獲得に及ぼす影響の研究」白崎敬治（放送大学）

「保育施設と地域の協働関係構築に向けた実践～保育所×地域 つながり力アップ・ワークショッププロジェクト～」三輪律江（横浜市立大学）ほか

「せんだい・こどものまち デザインが広げるファンタジーの世界」米倉雅真（こども未来フォーラム）

「こどもの成長・発達環境のための“環境づくりリゾームサイド”の構築とその検証」山田あすか（東京電機大学）ほか

「ミニヨコ出張プロジェクト こどものまちが被災地のこどもたちとできること」岩室晶子（NPO 法人ミニシティプラス）ほか

■事業の成果について

国際シンポジウムでは、未来に変化を生み出す行為主体としての幼児を見直す必要が提起され、そのために遊びを受け入れる文化の確立や制度のラジカルな見直しが必要と提案された。

自治体施策を取り上げた特別シンポジウムでは、「子どもたちの生活（遊び）と夢」を大切にすることが必要で、こどもにやさしいまち評価の視点として、子どもが生活しやすい、子育てがしやすい、子どもや家族を

応援、子どもの主体的なまちへのかかわりなどが重要と提案された。

分科会では、こどもの城の閉館問題をきっかけとした子どもの施設の大切さを訴求や子ども政策の省庁横断の必要性、教育の中では見えない子どもの力を引き出す放課後の活動の場の重要性、子どもと一緒に走ってくれる保育者の重要性、子どもの行動を制限するのではなく子ども自らが主体的に参画できる社会的な空間の必要性、排泄（トイレの環境）も含めた生活環境のデザインの提案、大学生や若者の活躍による大人と子どものつながりの提案、遊び心をもって大人が子どもと一緒に遊べることの重要性、子どもの社会参加の機会としての道遊びの重要性などが提案された。

全体を通じて、子どもがこれからの社会において、コミュニティ構築の要となるであろうこと、そして子どもたちにはその力があることなどの考え方が共有された。これらについては、大会実行委員会が中心となって、大会提言として発表した。

## こども環境学会 2013 年大会（東京）

### 「こどものコミュニティカ～こどものつながる力・つなげる力～」

#### 大会提言

子どもたちは、多くの可能性を持ちながら今を生き、そして未来へその力をつないでいる。未来を担う子どもたちの育成環境を、「幸せ」が実感できる持続可能な地域・社会へ変革していくためにも、子どもたちの「コミュニティカ」に寄り添い、子どもたちの「生きる力」を支え、子どもたちの笑顔がより一層輝くよう、ここにこども環境学会 2013 年大会（東京）大会の成果として提言をまとめた。

#### 子どもの表現を受け止めるために、大人が遊び心を取り戻そう！

子どもが安心して自らを表現するためには、その表現を感じ合い認め会える関係が必要である。大人自身が気持ちを動かして遊び、子どもたちと共感・共振する存在となれば、子どもたちの表現力は安心感を得て動き出し、受け止められることで輝きを増す。子どもと共に遊び心を取り戻そう。

#### 子どもと大人が互いの息遣いを感じられる距離を大切にし、一緒にいることが楽しいまちをつくろう！

子どもの活動に関わってきた大人は、子どもの遊びや子どもの育つ環境について語り続けよう。見守られた環境で育った子どもたちへ、自分から感じ、考え、行動する大人になると信じるのが大切である。

#### 縁日の復活のように、プレイストリートを日常に！

子どもに目が行かない社会を子ども本位に変えていくためには、道路をプレイストリートにしよう。縁日のように定期的に開催し、沿道の人が出てきて互いに知り合い、楽しむことから始めよう。

#### 既存の保育館や子ども観にとらわれず、共感者・伴走者と楽しみながら、新しい試みに挑戦しよう！

これからは、目の前の子どもと向き合いながら自分や園の保育観や子ども観を再確認し、時によっては劇的な方針変換も辞さない気持ちが求められる。これを共感者や伴走者と楽しみながら実践し、成果や課題を積極的に発信し続けることが大切である。

#### 子どもの放課後の時間の確保と、子どもが他者と関わる場を確保できる大人を育てよう！

子どもが自由に自己を表現すると共に、その可能性を試すことのできる時間を確保することは、大人の義務である。その時間の中で、子どもがコミュニティカを伸ばし、多様な人々と関わり合いの持てる場を創造できる大人の存在が大切で、そのような大人の養成が急務である。

#### こどものコミュニティカを広げる空間について、デザイナーや建築家は、対話の輪をもっと広げよう！

子どもが自ら考え行動ができ、その行動を制限せず、子どもから大人まで幅広い人々を受け入れることができる空間について、建築やデザインに携わる人だけでなく、教育機関の専門職も含めて話し合い、対話の場や機会を増やしていこう。

#### 子どもを守るために、社会的制度について積極的に発言していこう！

子どもを取り巻く社会的な制約は、あまりにも大人中心のものが多く、子どもが元気に生活するために、社会的な制度や仕組みに対して、私たちは積極的に発言し、変えていかなければならない。

#### 子どものコミュニティカを生かすには大人が変革の風を起こすこと！

子どもの持つ力（可能性）をコミュニティと日本の未来に活かしていくためには、大人が自分を丸出しにして子どもに感動を与え、大人自身が変わり、閉塞感を解放し、子どものあこがれ力に刺激を与え、変化に対応できる力を魅力的に子どもに伝え、変革の風を起こすことである。